

ジェンダー教育プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょうか。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは? (Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生みなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
<https://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指すゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知ることは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を進展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、これほど学問的に深く考えたことはなかった。新しい思考法を身につけられた気がする。

大学の中にも「男は」「女は」という言説があふれている。たくさんの学生、特に男子学生に、受けてほしいと思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に気づくことができた。ちまたにあふれる性に関する情報を批判的に見ることができるようになった。

一橋大学DEI推進宣言

「包容力に富む卓越した学術コミュニティとして自らを鍛え直し、地球社会の課題解決に取り組む個性と魅力あふれる大学を目指して、一橋大学は、ここに、多様性(Diversity)、公正性(Equity)、包摂性(Inclusion)を積極的に推進していくことを、学内外に向けて宣言します。

すべての学生・教職員が、人種、民族、国籍、性別、性自認、性的指向、障がい・疾病の有無、年齢、言語、宗教、信条、出身、地位、家族関係など、さまざまな属性において多様性を持つことを認識し、その尊厳が守られ、公正に包摂されることによって、本学の一員としての帰属感や矜持を持ちうる組織となるよう、取組をすすめます。」

学内リンク

ダイバーシティ推進室

東キャンパス 東プラザ1F
<https://www.sankaku.ad.hit-u.ac.jp>

他にもキャンパスには、学生相談室やキャリア支援室、ハラスメント相談室などがあります。

ハラスメント防止ガイドライン

<https://www.hit-u.ac.jp/harassment/pdf/guideline.pdf>
ハラスメントとは、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人に対する思いやりと敬意を欠いた行為です。一橋大学は、すべての学生と教職員の人權が尊重され、ハラスメントを受けることなく、本学において修学・教育・研究し、就労することができる環境を享受できるよう努め、ガイドラインを定めています。

ジェンダーと社会

【社・基礎/夏・OD】

佐藤文香
ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視点から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン

【社・導入/秋冬・月2】

神谷悠一
性の多様性をめぐる現代社会の状況を理解し、大学で学ぶジェンダーやセクシュアリティについての知見を生涯にわたる社会生活や職業生活にいかにかに活かしていくか、社会環境にいかにかにして働きかけるかを実践的に考えます。LGBTQ+フレンドリーな学内環境づくりを目指す「一橋プライドフォーラム」と連携しています。

ジェンダー論

【社・発展*/秋冬・金3】

児玉谷レミ
家族や労働、性産業や性暴力・DVといった皆さんにとって比較的身近であるような場や事象におけるジェンダーのダイナミズムを学んだのち、それらが軍事・戦争の領域とどう地続きであるかを議論していきます。

ヒューマンセクソロジー

【共通/秋冬・木6】

門下祐子
人は誰でも、「性の権利」の主体者です。セクシュアリティやジェンダーといった「性」について学び、あなた自身の生き方のみならず、障害のある人や高齢者らも含む、広く社会に生きる人々の「性」そして「性の権利」を尊重した社会のあり方について共に考えましょう。

ジェンダーと人権

【共通/春夏・月3】

高佐智美・谷田川知恵
社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・身体・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

全学共通教育科目

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
○	共通	秋冬・木6	音楽論(西洋)	小岩信治
○	共通	春夏・OD	英語(リーディング・基礎強化) I	川本玲子
○	共通	春夏・火2	英語(リーディング・標準) II	横江良祐
○	共通	春夏・火4	英語(リーディング・標準) II	横江良祐
○	共通	秋冬・火4	英語(リーディング・標準) II	横江良祐
○	共通	秋冬・木2	Special Topics in Liberal Arts B	横江良祐
○	共通	春夏・月5	朝鮮語上級 A	クォン ヨンソク
○	共通	秋冬・月木5	朝鮮語上級 C	クォン ヨンソク
◎	共通	秋冬・水1	ギリシア語中級 II B	大久保友博

学部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
☆	社・導入	秋冬・火4	社会研究入門ゼミナール	佐藤文香
◎	社・基礎	夏・OD	アメリカ史総論 A	貴堂嘉之
◎	社・基礎	秋冬・金3	史料講読(アメリカ) A	貴堂嘉之
☆	社・基礎	秋冬・火2	社会研究入門ゼミナール	田中亜以子
☆	社・発展*	秋冬・金2	ジェンダー史特論	田中亜以子
○	社・基礎	秋・OD	教育の歴史	太田美幸
◎	社・基礎	冬・OD	雇用関係総論	西野史子
◎	社・発展*	春・火金3	雇用関係特論	西野史子
○	社・導入	夏・月木2	社会学概論	多田治
○	社・基礎	秋・OD	社会学理論	多田治
○	社・発展*	春夏・月4	社会の構造と変動 A	多田治
○	法・基礎	春夏・金1	民法(家族)	石綿はる美
○	社・発展*	冬・月木2	スポーツの歴史	鈴木楓太
◎	社・導入	秋・月木1	社会科学概論 II	山田哲也
○	経・発展*	夏・火金1	実験経済学	竹内幹
○	法・基礎	秋冬・火金3	憲法(総論・人権)	平良小百合
○	ソ・導入	秋冬・火3	ソーシャル・データサイエンス入門 II	檜山敦
○	経・発展*	夏・火金2	Public Economics II	竹内幹
○	社・基礎	秋・木1	社会政策総論	原田玄機
○	社・発展*	秋・火金3	社会福祉	白瀬由美香
○	経・発展*	春・木2	比較経済発展論 A	森口千晶
○	法・基礎	秋冬・月木2	国際私法	竹下啓介
○	法・基礎	秋冬・火5	私法とグローバル化	竹下啓介
○	社・基礎	秋・OD	政治思想	田中拓道
○	社・発展*	夏・火金3	比較政治	田中拓道
○	経・発展	夏・月木2	アジア経済概論	會田剛史
○	ソ・基礎	秋・火金1	政治学とデータサイエンス	Woo Yu Jin
◎	支援・発展*	秋・火金1	Psychology of Social Justice	柘植道子

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

- ★：講義全体をジェンダーの視点から構成する
- ◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする
- ：ジェンダーについて1, 2回取り上げる

※は学部・大学院必修

ODはオンデマンド(録画)配信

最新情報および委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際には、学士課程ガイドブック(学部) / 学生便覧(大学院)に従ってください。

◆基幹科目◆

平和とジェンダー

【社/春夏・火4】

佐藤文香
洋書講読を通じて、平和とジェンダーの問題について議論します。2024年から26年の3年間はインターセクショナリティを重点的に取り扱います。

地球社会研究の基礎 A

【社/春夏・金2】

佐藤文香・田中亜以子・貴堂嘉之
既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

ジェンダー史の方法

【社/春夏・火2】

田中亜以子
ジェンダーの視点から歴史を分析するとは、具体的に何を分析することを指すのでしょうか。そして、どのような分析をしたらジェンダーを分析したことになるのでしょうか。本授業では、ジェンダー史という領域の発展とともに開拓されてきた、歴史的視点からジェンダーを考察するための、さまざまなテーマや方法論を吟味します。

◆連携科目◆

頻度	研究科	曜日・時限	講義名	担当者
◎	社	春夏・月2	地球社会研究の基礎 B	貴堂嘉之・竹中歩・飯尾真貴子・牧田義也
◎	社	秋冬・金2	アメリカ研究 A	貴堂嘉之
★	言社	春・水6	文献演習(英語)1970~80年代アメリカのフェミニズム理論	井上間従文
◎	社	春夏・月4	文芸思想研究	井川ちとせ
○	社	春夏・火3	多文化社会の人間形成	太田美幸
○	社	秋冬・月4	文化の社会学・社会理論	多田治
○	言社	春夏・月4	西洋古典文学	大久保友博
○	社	秋冬・火3	雇用政策	西野史子
○	言社	春夏・水2	作文ワークショップ(上級)・文献演習(英語 A)	Jeremy Harley
○	言社	春夏・水3	言語と社会 C	徳田匡
◎	言社	春夏・火3	英語圏文化論 A	中井亜佐子
◎	経	春夏・木2	学際消費文化特論・英語圏文化論 B	横江良祐
◎	言社	秋冬・水1	文献演習(ギリシア語 B2)	大久保友博
◎	言社	秋冬・木2	文献演習(ギリシア語 B3)	大久保友博
★	IPP	秋冬・木6	Gender and International Relations	前田真理子

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会科学研究センター(CGraSS)では、この課題にこたえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2025年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ

「Fierce Desires: Telling Stories about Sexuality in America」

講師：Rebecca Davisさん(デラウェア大学歴史学科教授)



一橋大学